



公益社団法人 岐阜県交響楽団

〒501-3133 岐阜市芥見南山3丁目7の10
TEL<058>244-0150 FAX 244-0151
ホームページ <http://gikyo.ktroad.jp/>

人間味あふれる 「生のドラマ」に魅せられて

岐阜県交響楽団

理事 千賀 英輝



私は小学校の頃から音楽の授業が苦手で、かつてはオーケストラとの接点も全くない人生を歩んできました。そんな私が、こうして歴史ある岐阜県交響楽団（岐響）の理事を務めているのですから、人生とは本当に不思議なものです。自分自身、夢にも思っていなかった未来に、今とても深い縁（えにし）を感じています。

岐響とのご縁の始まりは、今から15年ほど前に遡ります。当時、私は岐阜青年会議所の60周年記念事業を担当する委員長を務めており、3000人で第九を歌うとい

う壮大なプロジェクトを計画・実施しました。その際、岐阜県を代表するオーケストラとして演奏をお願いしたのが、岐響の皆様でした。今振り返れば、クラシック音楽の知識が全くない私が「3000人の第九」という

前代未聞の演奏会を企画していたこと自体、かなりの無茶だったと今でも冷や汗が出ます。音楽業界のルールも知らず、専門用語もわからないまま突き進む私を、根気強く支えてくださったのが、当時事務局を担当されていた神原副理事長でした。右も左も分からない私に対して、厳しくも温かく教え導いてくださいました。多大なるご迷惑をおかけしたにもかかわらず、最後まで一緒に走り抜けてくださったことは、今でも私の脳裏に強く、鮮烈に焼き付いています。

おかげさまで記念事業は

大成功を収め、私の大役は無事に終了した：はずでした。しかし、これが縁の終わりではありませんでした。当時の岡本太右衛門理事長や辻正副理事長からお誘いをいただき、こうして楽団運営に携わらせていただくことになりました。

こうして内側から楽団を見るようになり、私は岐響の団員の皆様に対する尊敬の念をますます深めています。岐響は「アマチュア」という

立場ですが、それは決してプロに劣るという意味ではありません。日頃はそれぞれの

本業や生活を持ち、その傍らで凄まじい努力を重ねて練習に励み、本番では信じられないほど素晴らしい音を響かせてくれます。時間を捻出し、情熱を注ぎ込むその姿は、下手をすればプロ以上に

多大なるエネルギーと努力が必要なのではないでしょう。そのひたむきな姿勢には、いつも頭が下がる思いです。

先述の通り、私は音楽が苦手だったこともあり、技術的な演奏の良し悪しを細かく聞き分ける耳は持っていない。しかし、演奏している

団員の皆様の表情や、演奏が厳かに終わった瞬間のホールの空気感、あの独特な雰囲気を見るのが何よりも大好きなのです。

生の演奏には、一筋縄ではいかない「人間らしいドラマ」があります。時には納得のいく完璧な演奏ができた時、時には本番ならではの難しさに悔しい思いをしたりすることもあるかもしれませんが、だからこそ客席に届く「生きた音楽」は、いつも一期一会で新鮮であり、私たちの心を激しく揺さぶるのだと思います。

私が見ているのは、芸術的な完成度という視点ではなく、泥臭くも美しい「人間的な視点」なのかもしれません。もしかすると私は、音楽通の皆様方とは少し違った角度から岐響の人間味に惚れ込んでいる、一風変わったファンの一人なのかもしれません。

これからも、この素晴らしい楽団を理事という立場から全力で応援し、支えてまいりたいと思います。

（株式会社千賀 代表取締役社長）

岐阜交響楽団第104回定期演奏会 岐響と旅する北欧の世界へよせて

新田 ユリ

2度目の共演の今回、前回に続き北欧の音楽を取り上げたコンサートとなった。2019年の初共演ではシベリウス&伊福部昭という組み合わせで、国を別とした北の大地の魂を感じていただけるプログラムだった。

今回は、シベリウス(フィンランド)&グリーグ(ノルウェー)&ニルセン(デンマーク)、という3つの北欧の国をそれぞれ代表する作曲家の登場のプログラムとなっている。

北欧五カ国という呼び方には1つのチームという印象を伴うが、実は5つの国(デンマーク・ノルウェー・スウェーデン・フィンランド・アイスランド)はそれぞれに人種・歴史・言語が異なる。それでも現在この五カ国は特に未来に向けての政治的な面で協力体制を強めている。

この北欧の音楽に明確に取り組み始めてから30年あまりの時間が経過した。その間世界情勢も大きく動き、気候変動もあいまってステレオタイ

プな「北欧」の認識では語り尽くせないことも増えてきている。北欧の夏は涼しいという常識は、今世紀に入り徐々に崩れていて、フィンランドの夏で何度も夏日の継続を体験するようになった。ある年には35度以上が数日連続し、フィンランド中の扇風機が完売になったという事態もあった。通常個人宅にはクーラーは設置していないフィンランド。夏の白夜の季節は深夜まで太陽の光を浴びるため建物は暖まり続ける。よって日本よりも厳しい暑さの室内となる。例年通りの夏の場合、8月に入ると早くも秋の風が吹き始め、日没も8月終わり頃から徐々に早くなるのははっきりわかる。

そんなフィンランドとのご縁は2000年の文化庁在外研修生としてラハティ交響楽団に1年間の研修をして以来ずっと継続している。フィンランドの演奏家、作曲家とのコラボ企画は数多く、フィンランド・日本それぞれにおいて演奏活動を続けてきた。

ノルウェーと自分の出会いは、まずはグリーグの終の棲家トルロハウゲンへの冬訪問に始まる。1995年の冬のことだった。グリーグの作曲小屋が建つところはフィヨルドに面しているため、小屋の前の水面は一面氷と雪の真つ白な世界が広がっていた。通常夏のみの解放の場所なので建物には一切入ることはできなかったが、この凍った水面に立つてグリーグが晩年妻ニーナと過ごした一帯を美しく冷たい大気とともに存分に体感したのは、本当に貴重だった。

その後一度、ノルウェーのクリスチャンサン交響楽団の管楽器セクションとの公演を指揮する機会があり、吹奏楽作品を演奏した。ノルウェー人の印象は、とにかく大らかで温かかった。楽器を持つ手は皆さん大きく、ヴァイキングの末裔という言葉を思い起こさせた。切り立つフィヨルドの旅は2度経験した。厳しさとしと美しさの同居、その緊張感ある大自然から多くの言葉を受け取った。北欧五カ国の中で一番早く接したのは、実はデンマークの人だった。まだ私が30代はじめの頃、海外の人と交流する機関を通してデンマーク人の女性を我が家に招いたことがあった。明るく魅力的な人だった。そして奇跡的なことが昨年末12月に起きた。SNSツールを通してその彼女ヘンリエッタから突然メッ

セージが飛び込んだ。30年前の我が家での滞在について思い出を送ってくださった。デンマークのお菓子をいただいたのも思い出した。そんな個人的な交流からはじまったデンマークとのご縁は2017年に「南デンマークフィル」との共演につながっていた。私がデンマーク音楽の父といわれるニルス・ゲーゼの作品を日本で多くとりあげ、日本初演も行っていたことがオーケストラの事務局長の耳に入り、ゲーゼの生誕200年の年にデンマーク音楽を取り上げたプログラムで客演依頼が入った。それは本当に音楽的にも貴重な体験だった。メインはニルセンの交響曲第6番。アンサンブルの難しい作品ながら、楽員の皆さんとは楽しいムードで進めることができた。デンマークは島国。大小1400を超える島々が点在し、大きな島は橋でつながれている。首都コペンハーゲンにはシエラン島、ニルセンの生まれ育ったところはフン島。平らな地形が多く、海風が強く吹く。

さて、今回岐阜県交響楽団の皆さんと演奏する作品は、私がこれまで出会ったフィンランド、ノルウェー、デンマークそれぞれの人や風土、言葉、文化等々の異なりが見事に表現されている曲としてご紹介したい3曲。

1曲目のシベリウス「吟遊詩人」

は、静寂の美—という一言に尽きる。これはフィンランドという国を語るにも大切なキーワードと想っている。25年前の研修で一番強く感じたことは、「街が静か」「人の話をよくきく」「自然との共存を大切にしている」、それは一昔前の日本にもみられた日常の様子だと当時思っていた。フィンランド語と日本語は言語が遠い親戚。日本人には発音しやすい言語。性格的にもシャイな人が多い。相手との距離感—この「吟遊詩人」の演奏には欠かせない。シベリウスは自身を「音の詩人」と評していた。オペラの世界では大きな作品を遺すことができなかったが、劇音楽の作品は多く、情景描写や心の機微を音で描くことには特別な才がある。それも限られた音の数で。ハープは吟遊詩人の友好的存在。フィンランドには民族楽器としてのカンテレがある。古くは魚の顎の骨に弦を張ったものだった。その楽器とハープの系列は異なる。この曲はどちらかというところゲルマン系ノルディックに伝わってきた北欧神話に登場する語り部をイメージされている。実はシベリウスはスウェーデン系フィンランド人。母語はスウェーデン語である。100曲あまりの歌曲も8割以上がスウェーデン語の歌詞に作曲されている。唯一のオペラ「塔の乙女」もスウェーデン語のテキスト。その音と言葉の世界とともに、フィ

ンランド人としてのシベリウスが持つ静寂を大切にすることが短い時間の中でとても有機的にある種の緊張を



伴って描かれたのがこの作品。

ノルウェーを代表する作曲家のグリーグは、シベリウスより20年ほど年長であり、若きシベリウスに応援するメッセージはがきなども送っていた。グリーグは「ペール・ギュント」はじめ管弦楽でもピアノ曲においても物語性の強い音楽を遺している。イメージが強い。あふれ出る美しい旋律。柔らかな色調。しかし、グリーグの人となりを見てみると、決して穏やかで優しいだけの人物ではなかった。当時の様々な政治的な問題や、身近な人が不当な扱いを受けた事などに明確な抗議の姿勢を示

し、公的な文書を発したりもしていた。小柄で熱しやすいい気性は、火の玉のように周囲に写ることもあったようだ。その強い気性は、例えば舞曲におけるリズムの明確さ、特徴的な付点音符の連続、繰り返されるアクセントなどに現れている。よく知られている「ピアノ協奏曲」の冒頭は荒々しいフィヨルドの風景を思わせる。あの旋律は一つの「グリーグ印」とも言える音列で、今回の交響的舞曲にも数多く出てくるので、ぜひじっくりとお聞きいただきたい。4つの舞曲を通して、素朴で自然豊かなノルウェーでの大地に生きる人の美しく強い心を感じていただけると思う。

演奏会のメイン曲であるニルセン「交響曲第2番—4つの気質」は、私自身6曲のニルセンの交響曲の中で最も回数多く指揮をしている。4つの楽章それぞれの気質・性質などは曲目解説でお読みいただけるので、こちらではニルセンその人のことを少し触れてみたい。シベリウスと同年生まれのニルセンの伝記は、ある時期まで情報統制が敷かれていた。それは私的な面の様々な物事を家族である長女が表に出すのを厳しく止めていたという背景があった。1983年にトルベン・スコウスボーにより記された伝記はある種の検閲が入った内容だった。そして長女はそれから25年間は、この本の内容

を変更してはならないという要求を出していた。今世紀に入り新たな伝記が表に出てきて、ニルセンの「人間臭さ」「人好きのする性格」「寂しがり屋」「反骨精神」等々人生における様々な出来事から色濃く浮かび上がってきた。それはこの第2番の交響曲の4つの性格をすべて併せ持っていると感じさせるもの。2歳年上の世界的な彫刻家として活躍した夫人との人生は、芸術家同士のカップルにおける利点も難しさも鮮やかに示すところとなっていた。寡黙でシャイで着道楽が示すようにやや「エエ格好しい」の部分がある同い年のシベリウスと比較すると、開放的で、誰とでも親しくなれ、体裁を気にしないタイプのニルセンの方が、個人的には付き合いたいと思っている。ニルセンが子供の頃に自ら撮影した二十面相の写真が語るように、多くの性格が共存し、人へのアピールが強い性格は、ニルセンのいずれの作品においても「これが自分」という姿が見える。若い頃、留学先で師匠に作品の欠点を指摘されたことに「それを直したら僕ではなくなってしまう」と反論した姿勢は、生涯ニルセンの作品が唯一無二のものであったことにつながっている。

三者三様の北欧人。このコンサートではそんな「違い」をぜひ楽しんでいただきたいと思います。

未来へ響け、私たちのハーモニー 70年紡いだ皆様との絆、

そして未来へ贈る新「選曲方針」

選曲委員会

いつも私たち岐阜県交響楽団(岐響)を温かく応援していただき、誠にありがとうございます。本日も来場の皆様に、新たに立ち上がった「選曲委員会」、および当団の未来を紡ぐ新たな「選曲方針」をご紹介します。

2025年秋、中長期的な視点に基づいた計画的かつメリハリのあるプログラム作りを実現するため、このたび新たに「選曲委員会」を立ち上げました。私たちは、従来の「演奏会1回ごとに曲目を検討する」方法から一歩進め、長期的な視野でプログラムを展開できるよう新たな方針を策定しました。その目的は、多彩な選曲によるファン・来場者の増加や団員のモチベーション向上、そして技術の底上げと周年にふさわしい記念企画の立案です。

当団は1953年の発足以来、70

年以上の歴史を重ねる公益社団法人であり、現在は100名以上の団員が「日本一のアマチュアオーケストラ」を目指して研鑽を積んでいます。将来の75周年、80周年の大曲演奏をも見据え、演奏会プログラムを通じてさらなる団の魅力向上を図ってまいります。

1. 定期演奏会の「シリーズ化」

複数回の定期演奏会にわたってメリハリのあるプログラムをお届けできるよう、以下の3つのシリーズを軸に展開してまいります。

①名曲シリーズ

皆様になじみのある名曲を中心に取り上げ、来場者とファン拡大、クラシック音楽の普及を図ります。各

演奏会に明確な「テーマ」を設定し、プログラムの一貫性とわかりやすさをお伝えします。

②挑戦シリーズ

団員のモチベーションと技術向上を重視し、主に私たちが演奏・挑戦したい曲を中心に取り上げます。未演奏の作曲家や古典も含む様々な年代の作品に率先してチャレンジし、技術力や表現力を磨きます。

③岐阜シリーズ

公益社団法人としての立ち位置を明確にし、岐阜の音楽文化発展に寄与します。委嘱作品も含め、ふるさと岐阜にちなんだ作品の演奏や、岐阜・岐響ゆかりの音楽家との共演を重ね、地元の皆様へ恩返しとなる「岐響ならではの」ステージをお届けします。

本日もお届けする「第104回定期演奏会」は、まさにこの新しい方針における「挑戦シリーズ」の記念すべき第一歩です。今回の選曲では、指揮の新田先生からニルセンなど当団で演奏経験のない斬新な曲目をご提

案いただきました。選曲委員会は先生のご意向を尊重するとともに、先生が得意とされる北欧音楽を、豊富な知識と経験に基づく先生のご指導のもとでぜひ演奏したいという思いから、本日披露させていただくものです。

定期演奏会の『シリーズ化』：3つの柱

導入の目的

① 岐響ファンの拡大&来場者増



② 団員のモチベーションと技術向上



③ 中長期的な視点でのプログラム展開 (75・80周年を見据えて)



名曲シリーズ

クラシックの魅力をすべての人へ

- ・親しみやすい名曲を中心に
- ・明確な「テーマ」の設定
- ・わかりやすさを届ける

挑戦シリーズ

技術を高め、演奏の情熱を燃やす

- ・我々が演奏・挑戦したい選曲
- ・未演奏作品などへのアプローチ
- ・オーケストラの技術強化

岐阜シリーズ

郷土への愛と貢献、公益法人の使命

- ・委嘱作品や岐阜に関する曲
- ・岐阜・岐響にゆかりのある演奏家との共演
- ・地元の皆さまへの恩返し

2. お客さまとともに歩む未来

今後もシリーズ化の方針に沿って選曲を進めてまいります。指揮者の意向を汲みつつ、団員の希望や熱意もより強く反映させ、中長期的な計画のもと、魅力的なプログラムを展開していく所存です。

そして私たちは常に皆さまの支えとともに歩んでまいりました。演奏会アンケートなど、皆さまから寄せられる温かい応援の声は、私たちの大きな原動力となっています。これからも豊かで多彩な音楽、そして郷土に深く根ざした響きを皆さまに届けするため、団員一同、より一層真摯に活動に励んでまいります。今後とも岐響をよろしくお願いいたします。

さて、ここからは、選曲委員会のメンバーに話を聞いていきましょう。
★「選曲委員会」始動！

上田…この5人で走り始めて数ヶ月。LINEの通知が鳴り止まない日々でしたが(笑)、まずは活動の手応えをどう感じていますか？

清…非常に濃密な時間でした。全体の整合性や物語性を考え、中長期的

な岐響の魅力を高めるプログラムを練る作業は、重責ながら至福でしたね。

松浦…最初は進め方も手探りで不安もありましたが、課題を一つずつクリアしながら、岐響の歴史を振り返りつつ議論を進められたと思います。内藤…難易度や編成の制約といったシビアな課題からも逃げず、全員で真摯に向き合うことができました。

林…選曲の経験がなく不安でしたが、皆さんが私の素朴な疑問も拾って一緒に進めてくださり、本当に嬉しかったです。

★「挑戦シリーズ」第一弾・決定までの裏話

上田…新方針の第一歩となる「北欧プログラム」ですが、決定まではかなりの激論でした。

林…最終決定の議論はワクワクしつつハラハラもしました。隠れた名曲などだけに、最初は戸惑いが大きかったのも事実です。

松浦…でも、曲が形になるにつれ、未来の岐響のために必要な一歩だったと実感しています。

清…そうですね。新田先生の「シベリウス以外ならニルセン」という提

案を、我々の「挑戦シリーズ」という方針に見事に合致させられました。

内藤…今日はこの北欧の風を岐響の新たなスタンダードとして、力強く皆さんにお届けしたいですね。

★皆様への感謝と、これからの展望
清…ここで忘れてはいけないのが、事務局、インペク、ライブラリアン、PR担当など、岐響に関わる皆様のご協力と連携です。

松浦…選曲のコンセプトを組んで素敵なチラシを作成してくださったり、北欧を訪れた団員のメッセージと美しい写真と共にSNSへの掲載企画を提案してくださったり驚きでした。楽譜手配に尽力いただいたライブラリアンさんにも感謝です。

林…皆様のフットワークの軽さと組織力は素晴らしいです。また、トップ奏者の方々からも、団を愛するがゆえの熱いフィードバックを多くいただきました。

内藤…むしろ、あの鋭い指摘があったからこそ目指すべき姿勢がより強固になり、今後さらにブラッシュアップしていける確信が持てました。

上田…ユーモアを忘れず、音楽にはどこまでもストイックに。岐響の新

しい歴史を作っていきましょう！これからの定期演奏会も、皆様がわくわくするようなプログラム、そして演奏をお届けします。乞うご期待！

メンバープロフィール

- ①バート ②岐響歴 ③推し作曲家 ④推し曲
- 上田 淳史 ①ヴァイオリン ②3年 ③リヒャルト・シュトラウス ④リヒャルト・シュトラウス／四つの最後の歌
- 清 信 ①打楽器 ②27年 ③シベリウス・ラヴェル、伊福部昭、吉松隆 尊敬する作曲家(別格)…シヨスタコーヴィチ ④マーラー／交響曲第3番
- 内藤 真史 ①トロンボーン ②4年 ③マーラー、ワーグナー、リヒャルト・シュトラウス、ブラームス
- ④マーラー／交響曲第2番、第3番
- 林 千佳代 ①コントラバス ②2年 ③ブラームス、ベートーヴェン ④ブラームス／交響曲第1番
- 松浦 智美 ①クラリネット ②18年 ③ブラームス、シューマン ④リムスキー・コルサコフ交響組曲「シェラザード」



岐響パート紹介 第2回 トランペット

高音なら任せて!!...といつか言えるようになりたい!?

トランペット吹き魂の叫び

岐響トランペットの仲間たち

メンバー同士で紹介してみました

大塩悠納さん【紹介者：馬淵】

先ずはトランペットメンバー5人の年齢構成です。

20歳代(女)

30歳代(男)

50歳代(男)

60歳代(男)

70歳代(男)

この様にトランペットパートは高齢化しています。その中で唯一女性団員の大塩さんは、2021年に入団した若手です。

大塩さんは岐響内部で構成する金管アンサンブルに加わって、多くのアンサンブル演奏会に参加しています。

大塩さんは岐響以外のオーケストラにも参加していて、シヨスタコーヴィチの全交響曲15曲に挑戦しています。

小野木さん【紹介者：大塩】

実は出身高校が同じだったり、お互いにペットを飼っていたりと共通点が多く、会うといつも話が尽きません。トレンドや最近の話題にも詳しいので、私が逆に教えてもらうこともしばしば...笑

2人で同じ曲に乗る機会が多く、奏法の相談や曲を吹き切る為の作戦会議をすると、いつも良いアドバイスをもらえるので本当に助けられています。これからもどうぞよろしくお願いします!

余語さん【紹介者：小野木】

我がトランペットパートの首席奏者。

岐響ではトレーナーとしても活躍され、パート練習の指導はとて有意義な時間となります。

私もかれこれ40年お世話になっている師匠的存在です。

御歳66歳!

燐銀の音色をお楽しみください。

馬淵茂さん【紹介者：余語】

私たちトランペットパートの最長老にして岐響の生き字引のような方です。

私が入団する前から今に至るまで、ほとんど変わらない佇まいでトランペットライフを満喫されています。

また、パートトップ(私)の至らないうところをフォローしていただき大変助かっております。感謝!

現在はパートの会計係をお願いしておりますが、このポジションはもし、パートでの集金が滞った時、補填できる経済力が必要なので、心強い存在です!!

もしもの時は、ぜひよろしくお願いします。

中村仁さん【紹介者：余語】

岐響、トランペットパート始まって以来の秀才!

西の方にある、某国立大学の学生オケの出身で、教育に携わるお仕事をしています。

さらに高校の吹奏楽部の指導にも情熱を注ぎ、コンクール等でも活躍しています。

現在は出身地の高山に勤務しているので休団中ですが、早い復帰を心待ちにしています!





今や岐響を牽引する余語さんにも、こんな時代がありました

○トランペット吹きは
どこから来る？
いろいろなジャンルで活躍している
トランペット。オーケストラはもとよ
り吹奏楽や金管アンサンブル、ジャズ、
ラテンミュージック、ブラスロックな
どのポップス系にも不可欠な楽器です。
トランペットに出会う人の多くはや
はり吹奏楽ではないでしょうか。
岐響のメンバーもほとんどは学校の
吹奏楽部からスタートしているみたい
です。

トランペットの トリセツ

○こんなトランペットがあります！

「トランペット」とひとことで言っても、その種類はさまざま。大きさや形、音色の違う楽器たちを集めてみました。



上からC管ロータリートランペット
C管トランペット、B♭管トランペット
オーケストラの主要レパートリーはほ
ぼこれらで賄っています。
ロータリー式はドイツ、オーストリア
などのオーケストラでよく使用されて
います。



上からピッコロトランペット
E♭管トランペット、D管トランペット
これらは管が短く高音に特化した楽器
です。パロックや近現代曲等で使う事
があります。また、金管アンサンブル
でも活躍します。



番外編
上から信号ラッパ(おそらくG管)
ホルネット、フリューゲルホルン
これらもトランペット吹きが担当しま
す。ホルネットはフランスの作曲家や
チャイコフスキーなどの楽曲でトラン
ペットと併用してよく使われています。

トランペット吹きのつぶやき

楽器店でトランペットフェア
があると買う気もないのにつ
い、試奏してしまう。そして、
レア物や気に入った楽器に
出会うと気がいたら、購入
している。そして、家に楽器
がたまる。
→吹く人はひとりなのに。

マウスピースにこ
だわるとついいろ
いろ試してしま
い、あっという間
に何種類も揃っ
てしまう。
→唇はひとつな
のに。

練習方法を模
索して、溜まっ
た教本、数知れ
ず。
→生きている
間にこれ全部、
こなせるのだ
ろうか？

いつも、音を外
して叱られて
るから、たまに
褒められても
素直にリアク
ションできな
くなる。
→疑心暗鬼！

最近の演奏会より

～皆さまから届いた声とともに～

「第103回定期演奏会」

R7.11.23 (不二羽島文化センター)

- 幸せな時間をありがとうございました。ハンガリー舞曲では「ブラームスらしい」ところと「へー、こんな曲もあるんだー」と楽しく聴かせていただきました。 (大垣市)
- ブラ2は今の季節にぴったりの曲、フィナーレはすばらしかった。サビをきかせたハンガリーダンス5番は面白かった。 (70才代)



「令和7年度実演芸術アウトリーチ事業 輪之内中学校」

R7.12.21 (輪之内町 アーリオンホール)

- どの曲も迫力があってすごかった。楽器紹介での音楽や紹介が見ていて楽しかったし、学びにもつながった。一つひとつの楽器が全体で一つになって奏でる音楽の良さなどにも気づくことができた。ありがとうございました。 (1年生)
- 聞く前は、日曜日だから早く帰りたいなと思いましたが、聴いてからは見入って気づいたらもう終わってしまうほど、時間があっという間に過ぎました。 (2年生)
- いろんな楽器があり、とても耳が気持ち良かった。また聴きたい。 (3年生)
- 素晴らしい一言です。夢と希望に満ちたコンサートでした、ありがとうございました。(地域の方)



「'26岐響ファミリーコンサート」

R8.3.8 (不二羽島文化センター)

- 楽器ふれあい体験がおもしろくて楽しかったです。見たことのない映画の曲ばかりだったけど、聴いたことのある曲でおどろいたし、その映画を見てみたいと思いました。司会の人と指揮者の人のかけあいもおもしろかったです。 (岐阜市、20才以下)
- 子どもたちがスター・ウォーズが大好きで、ぜひ生のオーケストラの音を聴かせたいと思い、連れてきました。が、親のほう感激しました。分かりやすい演目だったので、クラシック初心者でも楽しめました。 (瑞穂市、40才代)

